

ソラマメの露地栽培に適した品種と整枝方法

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜部八代研究室
担当者：木場 達美

研究のねらい

ソラマメは玉名、八代地域で導入され、産地化が図られているところであるが、本県の水田平坦地域の栽培に適する品種や省力的栽培方法等不明な点があり、これらを明らかにする必要がある。優良品種の選定及び栽植様式、整枝方法について検討を行い栽培技術を確立する。

研究の成果

1. 収量が多く、商品価値の高い3粒莢以上の莢の発生比率も高い‘陵西一寸’、‘ハウス陵西’、‘唐比の春’が有望である(表1)。
2. 1茎当たり着莢数が多くなるほど収量は増加する。但し、着莢数が多くなると商品価値の高い3粒莢以上の莢の発生比率が低下し、1莢重も低下する。

このため、3本仕立て1条誘引における整枝は、1茎当たり12莢着莢させ、その上部に4葉残して摘芯することで品質の高い莢を多く収穫することができる(図1、図2)。

普及上の留意点

1. 低節位からの花芽着生を促進するため、催芽した後、10月中旬から11月上旬までの時期に処理温度3で25～30日間の低温処理を実施する。本作型における収穫時期は、4月下旬から5月中旬の時期である。
2. 低温処理終了後圃場に直接定植する。但し、低温処理終了後50穴セルトレイに鉢上げし、本葉2.5葉まで育苗した後に定植すると欠株の発生もなく、揃いが良くなる。
3. 従来の整枝方法より数多く着莢させ、摘芯までの葉数も多くなるため、光環境の向上を勘案し、栽植様式は畝幅110～120cm、株間60cm程度(10a当たり栽植本数1,515～1,388株)とする。
4. 着莢確認後、幼莢の時期に1節1莢着生となるように摘莢を行い、摘芯は最上部の莢の着生を確認した後に実施する。

表 1：品種の違いによる 3 粒莢以上の収量及び莢の品質
(10 a 当たり換算)

試験年次	平成 11 年度			平成 12 年度			
	項目	莢数 (個)	莢重 (kg)	1 莢 重(g)	莢数 (個)	莢重 (kg)	1 莢 重(g)
品種名							
陵西一寸	39,818	2,148	53.9	32,835	1,871	57.0	
ハウス陵西	50,577	2,718	53.7	31,680	1,795	56.7	
唐比の春	46,088	2,354	51.1	33,660	1,850	55.0	
三連	38,283	1,725	45.1	31,717	1,674	52.8	
打越	28,531	1,610	56.4				
仁徳	32,042	1,457	45.5				
緑陵西	22,562	1,089	48.3				

整枝方法及び栽植様式(平成 11 年度、平成 12 年度とも)

整枝方法：4 本仕立て 2 条振り分け誘引

栽植様式 畝幅 135cm、株間 45cm 栽植本数 1,667 株/10a



写真 1 ソラマメ着莢状況

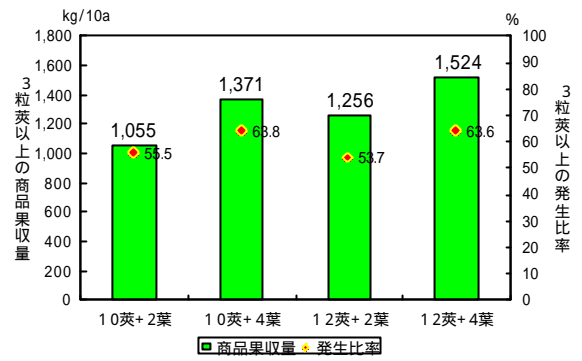


図 1 着莢数及び摘芯葉数の違いによる収量及び 3 粒莢以上の商品果発生比率の比較

整枝方法及び栽植様式

整枝方法：3 本仕立て 1 条誘引

栽植様式 畝幅 110cm、株間 60cm 1 条植え
栽植本数 1515 株/10a

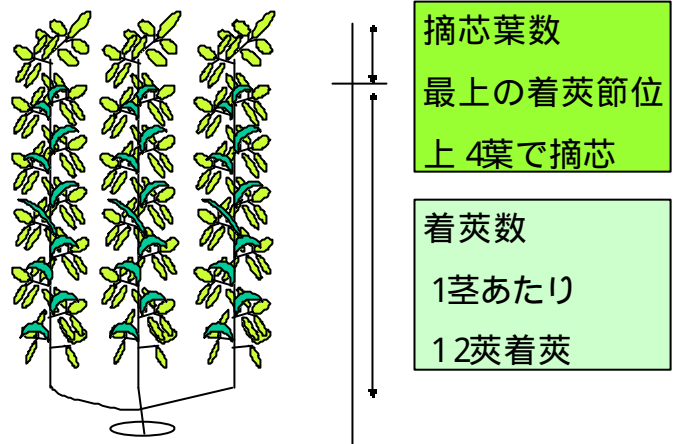


図 2 整枝方法模式図

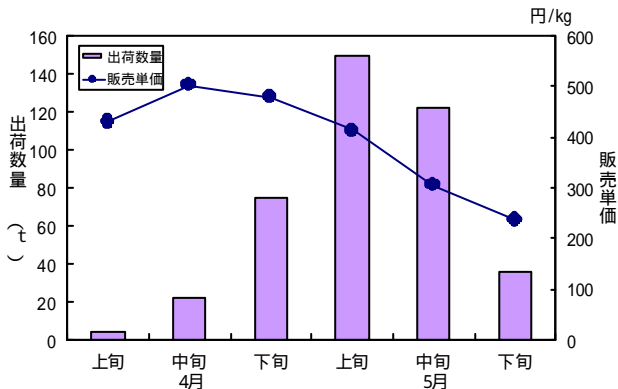


図 3 熊本県産ソラマメの出荷数量及び販売単価
(平成 12 年～ 14 年の 3 か年平均)
熊本県経済連調べを基に作成

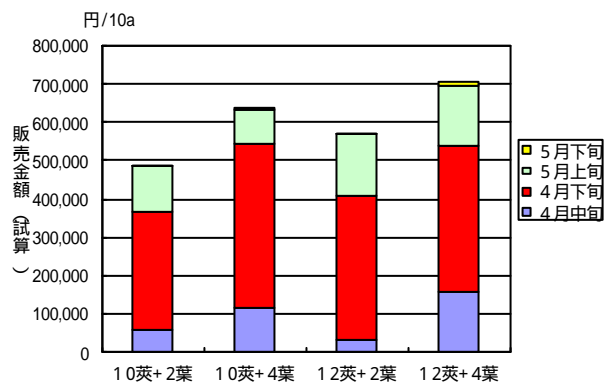


図 4 試験結果より試算した 10a 当り粗収益